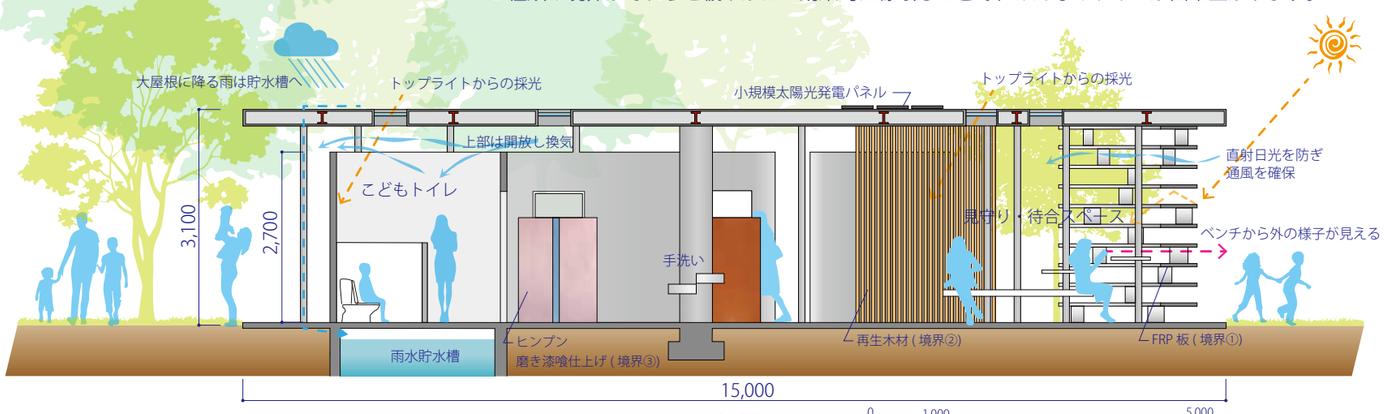
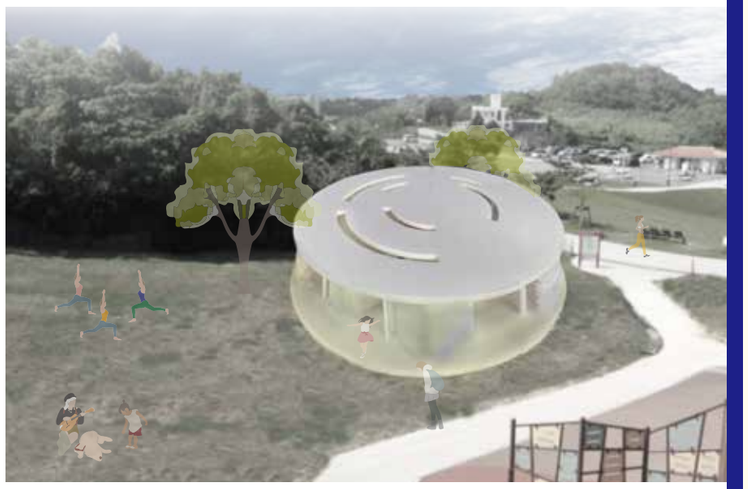
みんなのトイレと３つの境界

「みんな」にとって使いやすいトイレとは？
男性にも、女性にも、子供にも、大人にも。それぞれに配慮するのはもちろんのこと。もう一歩踏み込んで、５才児連れのお父さんだったり、赤ちゃんと小学生のお姉ちゃんと一緒に来たお母さんだったり、車椅子で来た夫婦だったり、若いカップルだったり。公園には様々な組み合わせの利用者が訪れます。
どんな利用形態でも使いやすく、明るくて、清潔で、安心できて、愛着が持てる。
大屋根に包まれた、小さな家の集まりのようなトイレと、広いベンチ。
３種類の境界がそれらを緩やかに・効果的に縁取ることで、みんなのトイレが出来上がります。

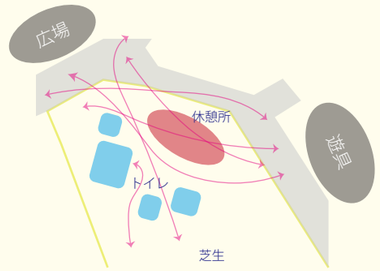


断面図



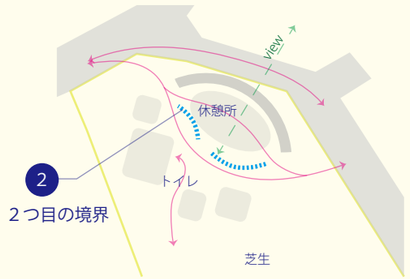
遊具と調和のとれた外観。複数ある入口から子どもたちを屋根下に迎える。

■ diagram



広場と遊具間の動線に配慮し、トイレ・休憩所を配置する。

緩やかに空間を定義する為、１つ目の境界を配置する。視界は閉ざさず、動線を限定する。



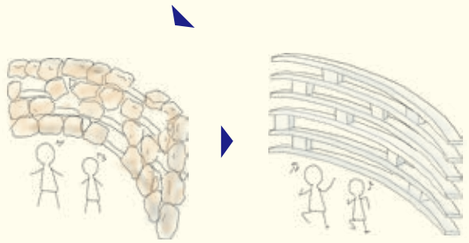
休憩室とトイレの空間を分ける為、２つ目の境界を配置する。縦格子により、向こう側の存在がわかる程度に視界を遮る。

各トイレのプライバシーを高める為、３つ目の境界を配置する。ヒンプンにより、人の出入りは認識できるが、中の視界は遮られる。

■ 3つの境界

1つ目の境界
① 積み上げる境界　ー日差しを遮り、視線は通すー

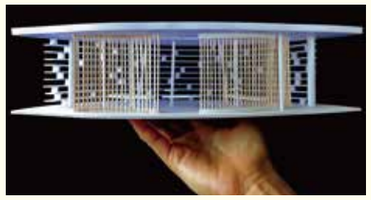
中城城跡の城壁。城壁の目的は、内部を守ること。
スケールダウンして、施設の壁とすると、安心感はあるが、開放性が無い。



「積み上げる」手法を残しつつ、石積みを抜いていく。
曖昧な境界によって生まれた半戸外空間は、囲まれる安心感がありながら、開かれた視界の休憩場所となり、遊具で遊ぶ子どもを見守る場所・公園内の待ち合わせの場所として機能する。

2つ目の境界
② 並べる境界　ー視界をぼかし、空間を分けるー

トイレと見守り・待合いスペースを分ける境界は、再生木材のルーバーとする。適度な目隠し効果を持たせつつ、空間が分かれ、待合スペースでトイレから出てくる相手を待つことができる。



境界の模型イメージ

3つ目の境界
③ 塗る境界　ー視界を遮り、存在は伝えるー

３つ目の境界はトイレ前のヒンプン として機能する。目線の高さのヒンプンは、プライバシー性を高める効果を持つ。
また、仕上げは、磨き漆喰とし、各トイレごとに色分けすることで、視認性を高める。さらに、磨き漆喰の施工は、ワークショップとして、一般の参加者と一緒に作り上げる。体験を通じて、施設に愛着を持つことができ、「皆で作り上げる」という昔ながらの建築手法を知り、沖縄建築の歴史・文化に触れるきっかけとなる。

中村家住宅のヒンプン

ワークショップのイメージ

施設概要		仕上げ			
構造：	鉄筋コンクリート造（トイレ） 鉄骨造（屋根）	屋根：ガルバリウム鋼板 ＋フッ素系塗装		壁：コンクリート打放し ＋EP 塗装	
床面積：	177 ㎡（屋根下部を全て含む）	床：コンクリート金鏝 磁気質タイル		界壁：FRP 材 再生木材 磨き漆喰	
最高高さ：3.1m					

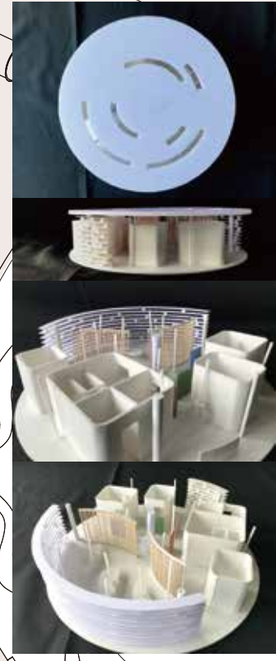
■ point

ライフサイクルコスト
建物のスケールは適切な規模とし、仕上げ材料は必要に応じて工場加工、ワークショップ等により現場施工費を抑える。また、維持管理費の３-４割を占める光熱水費を抑える為、小規模の太陽光発電パネルの設置や、雨水利用の為の貯水槽を計画する。各トイレは開放された天井により、自然換気が図れ、トップライトにより、自然採光が届く。

災害時・緊急時対応
雨水貯水槽は、手押しポンプに接続し、災害時（電源喪失時）にも水の確保できる。
また、ベンチは、人が横になれる広さが確保されており、緊急時の応急処置に対応できる。

手押しポンプイメージ

多様な利用形態に対応
様々な年齢の子どもたち、様々な組み合わせの利用者が訪れる為、子どもトイレや、授乳室、ベビーシート (多機能トイレ内) 等を配置し、誰にでも使い易い施設とする。



4 【トイレ前手洗い】 中央にある太い柱は、大きなガジュマルの幹のように屋根を支え、各トイレの間口がその幹に向かって配置されている。
各トイレの上部は解放され、効率的な自然換気がなされる。

1 【見守り・待合スペース】 遊具側・広場（通路）側へ視界が開かれ、遊ぶ子どもを見守りながら / 広場の向こうからやってくる相手を待ちながら 休憩できる。

2 【見守り・待合スペース】 トイレと見守り・待合スペースが縦格子により緩やかにゾーニングされる。

3 【アプローチ】 屋根を支える柱が点在し、雑木林のような空間を作り出す。
トップライトからは木漏れ日のような光が降り注ぐ。